

●里山農園に白土山への周遊通路を同志社大学サッカー部のボランティアの皆さんが完成させてくれました。

片道 500m で往復すると約 1 km で 40 分の散策通路です。一昨年里山農園にお越しの親子連れに里山農園などのガイドをすると丸山に登った子どもが楽しむ場所にしてほしい、そして洞穴へのルートが欲しいと提案がありました。それで昨年予期もしていなかった同志社大学サッカー一部がボランティアに来ていただけることになって、丸山の草刈りをやってのけていただくことができました。今年も昨年同様に出かけていただき白土山への通路の開削をお願いしましたところ、学生さんが二日間でのべ 30 名（昨年は 23 名）の皆さんが駆けつけて通路が出来上がりました。ルートに急峻なところがあって最も困難な斜面にも階段を設置す洞穴までを案内して全員がコース実現のための安で里山の会のメンバーは高齢で自力ではとても無2 日間で立派に開通させてしまいました。ものすした。これで素晴らしい学びの道具・普賢寺の昔の学んでいただけたと思います。

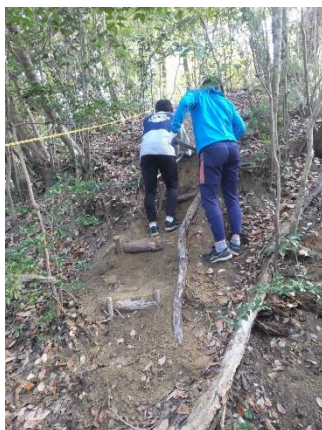
4年ほど前に桜谷先生の案内で愛知県の宇土の白土採取跡地を訪ねて京田辺にもこうしたものを作りたいと思って、それが実現できたのです。大いに効果を発揮するように工夫したいと思います。近隣の方々に一度ご覧になって楽しく充実した場所へのご提案をいただければと思います。大いにお待ちしています。

周囲は竹林や杉林など枯葉が積もった素晴らしい景色です。尾根筋ハイキングコースも素晴らしいですが、洞穴探検里山農園の周遊通路もいいところです。国蝶オオムラサキが自生しています。ヤマトサンショウウオの生育も可能になるかもしれません。18日は桜谷先生によって冬の観察を行います。まさに周遊通路の披露できる良い機会です。出かけてみてください。お待ちしております。

●この日は真冬で寒さが心配されましたが、二日とも晴天で暖かくて気持ちの良い天気でした。仕事をすると汗をかくほどの良い気候でした。里山のお母さんたちはたくさんの学生さんたちが来てくれるというので、親元を離れ一人暮らしをしておられるのであろうから、昼の食事で歓迎しようと数日前から準備をしていただきました。まずあったかいご飯が必要だろうと手分けをして温かいご飯の用意から始めていただき、子供のころから親しんできたカレーで腹いっぱい食べていただこうと用意してくれました。それでもお腹が空くだろうからバナナやミカンも用意しようと買い足していただきました。前日に用意したご飯は自然の中で食べる食事がおいしかったのか焚き上げたご飯は見事に平らげていただきました。二日目は里山農園に顔を出して草刈りや野菜などの栽培に精を出している母ちゃんたちに食事のお願いを頼みまし



初日に頑張ってくれた皆さん

[illegible]

た。数人の皆さんが歓迎しようと頑張っていたいただき炊き込みご飯と豚汁を用意していただきました。いずれも美味しいとのことでした。二日間を通して頑張っていたいただいて本当にありがとうございました。

●お礼のメールいただきましたので紹介させていただきます。この度の呼びかけや当日の手配などを進めていただいた川田花さんからの言葉です。

「やましろ里山の会様 一昨日と昨日は、本当にありがとうございました。昨年に引き続き、里山の会のみなさんとの活動を通してやりがいと楽しさを存分に感じる事ができました。私たちが温かく迎えてくださり、美味しい昼食やお菓子、昆虫についてのお話なども含め、日常から少し離れたような大自然の中で活動できたことは私たち学生にとって貴重な経験です。本当にありがとうございました。」

同志社大学体育会サッカー部 女子チーム 2回生 川田花



●木津川希少種生育調査管理業務として国交省からの受託業務である 40 ヲ所・16000 m²の生育調査と除草業務が完了しました。刈り倒した草の集積作業がこれからですが、一応刈り取り作業が終わりました。春は10000 m²夏は6000 m²、そして秋から冬は全体の16000 m²の除草をやり上げました。また40か所の調査地を毎月行い絶滅危惧種に生育調査を実行してきました。これの調査業務を報告書として年内に提出できるところまで漕ぎつけることができました。これまで5年間繰り返しての受注でしたが年内に業務報告書にまとめ上げられるところまで到達できたのは初めてであります。頑張って実行していただいた皆様本当にご苦労様でした。

●小川芳也さんの松江通信 No. 11

その後、クシナダヒメと結婚した須佐之男命は御殿を建てるところを求めて出雲国中を夫婦揃って歩き回ったところ、現在の島根県雲南市大東町須賀の地で「吾が御心清々し」と仰って宮造り（須我神社）をしました。また、美しい雲の立ち昇るのを見て「八雲立つ 出雲八重垣 つまごみに 八重垣つくる その八重垣を」と歌いました。須我神社は日本で初めての宮殿「日本初之宮：にほんはつのみや」で「和歌発祥の地」と呼ばれています。その後、出雲国を豊かにしようと開拓し最後に訪れた須佐の地（出雲市佐田町）で「この国の土地は狭い所であるが住み良い所である。だから自分の名は石木につけず、この土地につけよう」と須佐之男命は大須佐田、小須佐田を定め、自分の御魂を鎮めた（須佐神社）と記されています。また、子供にも恵まれ出雲大社のご祭神である大国主命は須佐之男命の六世の孫にあたります。以上が八岐大蛇退治伝説の概要になります。この続きは次回に・・・

●太田敏之さんの「小笠原旅行の概要」No. 2 小笠原ネコプロジェクト

小笠原では、哺乳類はコウモリ類しかいなかったそうです。そこへ人間が入ってきて、猫をペットやネズミ駆除のために持ち込みました。小笠原の父島、母島で野生化した猫を「のねこ」といいます。この猫は警戒心のない、多くの海鳥や、地面に巣を作る天然記念物で固有種のアカガシラカラスバトを捕獲するので、あちこちに捕獲箱が設置されています。しかし、多くの捕獲箱は前扉が塞がれた状態のままです。捕獲するときは、前扉を開き餌を中に入れて、毎日入っているかどうかを確認する必要があります。ここで捕獲された猫を人に慣れさせてから、東京都の獣医師会の協力で本土の家庭に譲渡するというプロジェクトが行われています。野生動物も猫も、両方の命を救おうという小笠原ネコプロジェクトというものです。父島のとびうお栈橋の近くに、猫の耳のように、三角形の板を2つ付けた小さな建物があります。ここが「ねこ待合所」で、捕獲された猫は東京の動物病院に引き取られるまで、餌を与えるなどの世話をして人に慣れさせる場所だそうです。しかし一方、野生の猫が減ると野生のネズミが増える等の問題もあるようで、なかなか一筋縄ではいかないようです。